

令和2年度 やまなし読書活動促進事業

図書館司書が選ぶ

こんな時、
この一冊。

あんな時、こんな時、あなたの人生に寄り添う1冊。
それはきっと、かけがえのない宝物。山梨県内の図書館司書がとっておきの1冊をご紹介します。



 やまなし読書活動促進事業（やま読） 

本事業は、家族や友人、親しい人などに本を贈る習慣を広め、県民一人ひとりの読書への関心と、読書習慣を確立することにより読書活動の推進を図ることを目的とした事業です。山梨県教育委員会、図書館、書店等が連携し、「贈りたい本大賞」「ビブリオバトルやまなし」「やま読ブックフェア」「やま読ラリー」「ワインと本と作者と」など、様々な事業を展開しています。

2019年、第13回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を受賞しました。



図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊。



読書の目的は人それぞれ。その中で何度も読みたい本に巡り会えたら……その本は、うれしいとき、辛いとき、悲しいときなど、さまざまな場面できっと、あなたを支えてくれるでしょう。

山梨県内の図書館司書がおすすめする「こんな時、この一冊。」をお届けします。あなたと本との素敵な出会いの一助となりますように。

海外にふらっと行きたい時に

『対岸のヴェネツィア』

内田 洋子／著 集英社

イタリア・ヴェネツィア在住の著者が、日々の暮らしを書いた本です。ヴェネツィアの街に溶け込むような文章が、まるで水の都・ヴェネツィアの路地裏を散歩しているかのように感じさせてくれます。コロナウィルス感染症で何もかも制限付きの世の中。世界中が不安な毎日を過ごす今だからこそ、気分だけでもイタリアへ…。

(南アルプス市立図書館)

失敗して落ち込んだ時に

『#どれだけのミスをしたか競う

ミス日本コンテスト』

水餃子のカンパネラ／編 KADOKAWA

また仕事でミスをした。穴があったら入りたい…。そのような時に手に取って欲しい1冊です。

ツイッター上で集まった様々な方がしでかした珠玉のミスが収められています。思わず笑ってしまうミスの連続です。読み終わる頃には心が軽くなり、明日もまた頑張ろうと思える楽しい本です。

(甲州市立塩山図書館)

現実を忘れたいときのスキマ時間に

『きまぐれロボット』

星 新一／著 KADOKAWA

便利なロボットを開発するエフ博士やエム博士、お金持ちのアール氏やエヌ氏、植物学に詳しいエス博士などが不思議な発明や発見、ロボットや薬などで様々な騒動を巻き起こす短編集です。人間の行動を嘲笑うかのようにいながら人間愛とユーモアに満ち溢れていて、一見突拍子もない空想的な話。読後はニヤリとさせられます。

(山梨市立図書館)

見えない壁を突き破りたくなった時に

『国境のない生き方』

ヤマザキ マリ／著 小学館

漫画家として活躍するヤマザキマリの体験的人生論。型にハマりがちな日本人の常識を軽く超え、「たくさんの本と旅と人との出会いが人を育む」という信念のもと、自分で考え、自分で感じ、自分の手と足を使って世界を飛び回る、その既成概念にとられない生き方に元気をもらえる。中高生にもおすすめしたい1冊。

(北杜市ながさか図書館)

「私にとっての喜び」を見つけたい時に

『ゴールドイーのお人形』

M.B.ゴフスタイン／作 すえもりブックス

自分にとって最良の人形を、誰かのためにひたむきに作る。この本の主人公は、心を込めて働く喜びを教えてくれる。相手の喜び顔を思い浮かべながら、一生懸命に物を作る幸せ。ふと、学生時代に友人の好きな布で、プレゼントの巾着を作った思い出や、父が亡くなった年の瀬に、好物だったおせちを作った、悲しく温かい時を思い出した。

(甲府市立図書館)

上手な表現が見つからない時に

『翻訳できない世界のことば』

エラ・フランシス・サンダース／著 創元社

この気持ち、この考えは何と表せばいいのだろう…。日本語で見つからなければ、世界の言葉に目を向けてみてはいかがでしょうか。感情を表す言葉や、情景を表す言葉、文化を反映させた言葉などが載っています。クスッと笑えたり、素敵だなと思ったりしているうちに、ぴったりの言葉が見つかるかもしれません。

(甲斐市立竜王図書館)

時間を想う時に

『モモ』 ミヒヤエル・エンデ／著 岩波書店

この本は「時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子のふしぎな物語」です。時間に追われて生活する昨今。その中で今、この時間を豊かに生きることが求められています。『モモ』は児童文学ですが、大人になった今でも、時間の使い方を考えさせられる本です。

(甲府市立図書館)

忘れられない恋をした時に

『恋歌』 朝井 まかて／著 講談社

心に想うただ一人のひとと、ずっと生きていけたらいいけれど、人生なかなかうまくいかない。たった一度の人生の中で、忘れられない恋をした時、本をめくって、主人公の詠んだ和歌を口遊んでみる。愛する人との再会を願い、強く生きていった彼女に、私は感嘆するばかりだ。

(甲府市立図書館)

いまの自分に自信が持てなくなった時に

『ほら、ここにいるよ』
オリヴァー・ジェファーズ／作 ほるぷ出版

コロナで世界が混乱に陥っているいま、自分には何ができるだろうと途方に暮れる瞬間があるかもしれません。

そんな時、『HERE WE ARE ほら、ここにいるよ』

「きみはひとりじゃないよ」とそっと寄り添い、優しく包み込んでくれ、まいごになった時の道の見つけ方を教えてくれる本です。

(笛吹市石和図書館)

メンタルが弱ってきた時に

『トップアスリートたちが教えてくれた胸が熱くなる33の物語と90の名言』

西沢 泰生／著 PHP 研究所

様々なストレスを受ける現代社会では、心身のバランスも崩しがちだ。どのページから読んでもO.K. 全力でスポーツに打ち込むアスリートたちの言葉が、どれも力強く、胸に響く。

落ち込んだ気分を前向きに修正し、やる気にさせてくれる一冊。ぜひ自分のパワーフレーズを見つけてほしい。

(身延町立図書館)

考えることに疲れた時に

『かんがえるカエルくん』
いわむら かずお／作 福音館書店

カエルくんとネズミくんがただひたすら素朴な疑問を考えるお話。子どもの頃、ある日突然どうしてだろうと考える小さな不思議を、一生懸命に考えています。読んでみると、カエルくんとネズミくんのやり取りがおもしろくてついつい笑ってしまいます。でもそれだけではなく、時折ハッとさせられたりしんみりしたりすることもある。

(甲府市立図書館)

世界各地の料理を堪能したい時に

『おいしい料理は、すべて旅から教わった』
荻野 恭子／著 KADOKAWA

料理研究家荻野氏による、世界中の家庭料理を集めた食文化エッセイ。家庭料理を知ることは、その土地の風土や宗教観、歴史的背景を学ぶことに繋がります。地元の主婦との思い出の数々や生活の知恵はとても興味深く、著者とともに世界各地を旅しているような気持ちになります。同時に、読んでいとお腹が空いてくる一冊です。

(中央市立田富図書館)

トラブルに悩んだ時に

『おとめ六法』
上谷 さくら・岸本 学／著 KADOKAWA

「法律」と聞くと難しい印象がある。人生でトラブルに見舞われた時に、行動の指針となるものだが、なかなか詳しく学ぶことは少ない。

本書ではそのような難しいイメージの法律を、優しく例を交えた解説から学ぶことができる。女性の人生で発生してしまう悩みが、少しでも軽くなるように読んでおきたい一冊である。

(忍野村立おしの図書館)

ゆったり時間を過ごしたいときに

『Michi』 junaida／著 福音館書店

鍵穴のあるドアの先の、長く白い道を抜けると、町にたどりつきます。

ページをめくるたびに現れる、不思議で個性豊かな町は、眺めていると時間が経つのを忘れてしまうほど。道をたどりながら町にいる人たちはどんな人たちなのか、何をしているのか、想像力が掻き立てられます。大人から子どもまで楽しめる、文字のない絵本。

(都留市立図書館)

日本の城をより深く知りたい時に

『城を攻める城を守る』

伊藤 潤／著 講談社

私は、地方に行くと、時間があれば城によく出かけます。訪れた城跡でその歴史に思いを巡らせます。この本は、そんな時にお勧めの一冊です。攻防戦の舞台になった城の当時の状況、歴史的背景を詳しく解説しています。旅行の際は、是非一読し、現地で歴史ロマンに浸ってみてはいかがですか？

(上野原市立図書館)

忙しさに追われて、自分を見失いそうな時に

『最初の質問』

長田 弘／詩 講談社

「今日、あなたは空を見上げましたか。」からはじまる質問と美しい絵。だんだん絵本の中に引き込まれ、意識は自分の内へと向かっていきます。何か大切なものを忘れかけていたのかもしれない…。

穏やかに自分を見つめ直すことができ、気持ちをリセットできるそんな一冊。

言葉と絵が心に沁みてきます。

(市川三郷町立図書館)

知的探求心を刺激したい時に

『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』

大阪大学ショセキカプロジェクト／編
大阪大学出版会

工学や法学など様々な分野の専門家たちが、タイトル通りの難問に頭をひねり、各々にアプローチしていく本書。「なるほど、そうきたか。」と、肩ひじ張らずに楽しみながら、物事をあらゆる角度から見つめる面白さとアカデミックな空気を味わうことができる。「何学か」を意識しつつ、自分なりに答えを出すのもまた楽しい。

(山中湖情報創造館)

意外と？身近な動物の生活を知りたい時に

『ツキノワグマのすべて 森と生きる。』

小池 伸介／著 文一総合出版

近年、春先になると出没情報が流れ始める動物…ツキノワグマ。

『あー、またクマが出たか』と呟きながら、『あれ、クマってどんな生活してるんだろう？』ベッドを作って休息？どんぐりは一日どれくらい食べる？クマの痕跡は見たことあるけど、どんな生活を？身近にいるのに知らないなんて！気になりませんか、クマのこと！

(大月市立図書館)

煮込み料理を作るときに

『ショートショート BAR』

田丸 雅智／著 光文社

レシピ本で度々出くわす 1 文「ここで約 1 時間煮込みます」。

この 1 時間というのが曲者だ。腰を据えて何かするには短く、かといって携帯を眺めているだけではもったない。

そこでこの本の出番。

1 話 5 分で読めるので、没頭しすぎて鍋が吹きこぼれる心配もない。さらに各話のオチもよい。煮込み料理のお供にぴったりである。

(市川三郷町立図書館)

こんな時も！あんな時も！どんな時も！！

『文学効能事典 あなたの悩みに効く小説』

エラ・バーサド、スーザン・エルダキン／著
フィルムアート社

こちら、みなさんに必ず「しっくりくる」1冊を処方してくれるブックガイド！

「ごちそうを焦がしてしまった時」「幽霊に取りつかれた時」「容姿に自信がありすぎる時」さらには、「鍵がなくて家に入れない時」。もう！どんな時だよ！！という感じですが…。あるんです！ぴったりの 1冊が。

読んでも楽しいブックガイド！

(富士吉田市立図書館)

家族と喧嘩した時に

『家族シアター』

辻村 深月／著 講談社

辻村さんいわく「“大好きだけど大嫌い”な存在」の家族を描いたこの短編集は、それぞれの目線から家族が語られている。兄弟の中でも立場から見た家族はきっと違うし、それぞれの役割がある。でも似てないようですごく似てるし、自分はいいけど他人に家族の文句を言われると腹が立つ。家族って、うとうとうしくも愛おしい。

(笛吹市石和図書館)



「図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊。」

2020年9月 山梨県立図書館発行